

あいコープ放射能自主測定ニュース

No. 61 2013年2月1回

生産者の取り組み —放射能対策をしています—

ジョイファーム小田原

いち早く数値をゼロに近づけたい
できることを続けていきます

「出てしまったものは仕方がない。しかし食べる立場に立つと、たとえ低くても無視できない。いち早く‘数値をゼロ’に近づけたい！」

2012年1月に初めてセシウムが検出され、そこから検査・調査・相談を繰り返してきました。2月に小田原市内全圃場の柑橘を検査し、数値が出る地域を特定。3月からその地域内のすべての圃場の樹に付いた放射性物質を「高圧洗浄機」で洗い流してきました。



生産者の鳥居さん



小田原のボンカン

キウイ、梅などの落葉(冬は葉がない)果実が不検出なのに、ネーブルや清見などの常緑(1年中葉が付いている)果実が検出されることから、枝と葉に検出される原因があることを突き止めました。そこで、枝と葉を高圧洗浄し、検出値が下がったデータを得ました。また葉の数値が下がれば、果実に出る数値も下がります。自分たちに来ることを繰り返していくしかありません。一日も早く、全品目全圃場が‘検出せず’になるよう、生産者・職員一丸となって向き合っていきます



国産レモン

●測定結果●

品目	Cs134	Cs137
青島みかん	<0.7	<1.0
レモン	0.9	1.5
ボンカン	0.6	1.9
伊予柑	3.0	6.1
ネーブルオレンジ	1.0	1.7
清美オレンジ	1.2	1.8
ゴールデンオレンジ	4.5	6.1
セミノール	2.9	4.7
甘夏	3.1	6.0

※甘夏(2012測定) 12.0 12.0

*2013年1月30日測定
検査機関でのGe検出器による測定

生産現場でもエネルギーの使い方を 見直します

少しでも原子力の力から離れるために、会社センターに太陽光パネルを設置する予定でいます。まずは90枚、出力20kwほどのものです。またJF小田原は市内でもかなり大きな農業法人になりますので、地域の中で先駆けて導入し、脱原発に進んでいきたいと思っています。